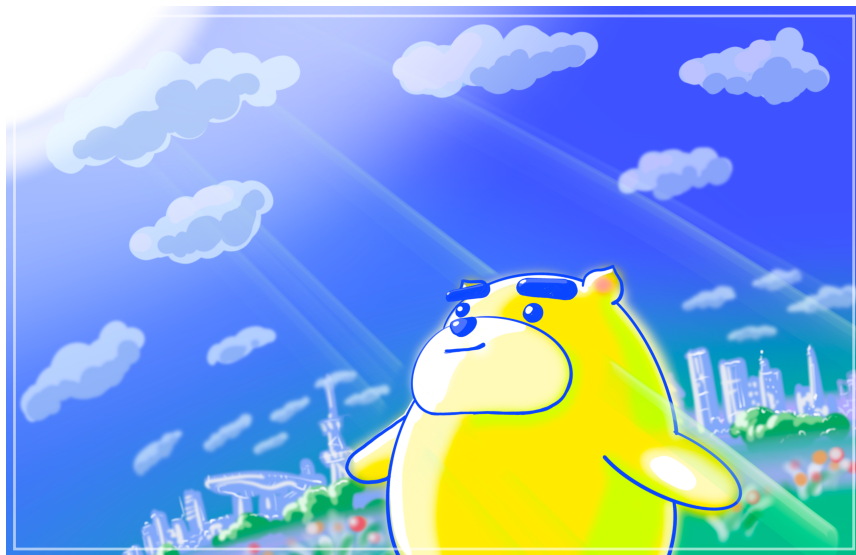


東海テレビ この1年の取り組み

2020



東海テレビ放送株式会社

ごあいさつ

本報告は、2011年のびーかん問題を教訓に、放送事業を軸とした地域への社会貢献、岩手県をはじめとした被災地支援、放送倫理意識の向上など、2019年7月からの1年間を中心に、東海テレビが実施した各種取り組みについて、皆さまに報告するため作成いたしました。

2020年。本来であれば今頃、東京に集まったアスリートの雄姿に世界が歓喜に沸いているはずでした。しかし現実は違いました。新型コロナウイルスが全世界を席卷、日本でも感染拡大とまらないよう新しい生活様式に努め、今も見えない脅威に立ち向かっています。東海テレビもこの未曾有の事態に、様々な対策を施し、各業務に取り組んでいます。誰もが不自由な暮らしを強いられる中、こういう時こそテレビができること、やるべきことは何なのか…。私たちはこれまで以上に試行錯誤を続けています。しかし、今経験している苦労や関係者で出し合った知恵は、放送に対する倫理観に磨きをかけ、番組をさらに豊かにする糧になるものと信じています。

「愛され、信頼される地域最良のテレビ局」を目指し、私たちは挑戦を続けています。今年2月にはTOKIOの国分太一さんをMCに迎え、毎週日曜日正午から「タイチサン!」をスタートさせました。普段は東京を中心に活躍する国分さんと共に、この地方の魅力を発掘・発信できればと思っています。

またこの3月には、東海テレビを含む名古屋の民放4局が共同で、ネット動画配信サービス「Locipo」の運営を開始しました。普段はしのぎを削るライバル同士ですが、局の壁を越え優良な番組や情報を発信することで、この地域のコンテンツ力を示すプラットフォームに育てていければと思います。

昨年度、ネット広告収入が初めてテレビを上回るなど、テレビを取り巻く環境は厳しく、社会の変化はますます進んでいくでしょう。その中で存在価値を認めていただくためにも、地域に密着した、正確で有益な情報をより早くお届けし、視聴者の皆さまに信頼、信用される事は何より大切と考えています。放送の公共性や公益性を意識しながら、皆さまの期待に応えられるよう努めてまいります。

新型コロナはいつ終息するのか今も見通しは立たず、長い戦いが続くかもしれません。しかしこの困難を克服できる日はいつか必ずやってきます。

東海テレビはその一助となれるよう、地域の皆さまとともに歩んでまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長

小島 浩資

<ビジョン>愛され、信頼される地域最良のテレビ局

<基本理念>

1. 放送の持つ公共性、公益性を深く自覚し、社会的使命感と高い倫理観を持って職務を遂行する。
1. ジャーナリズムを堅持し、表現の自由を守り、正確で迅速な報道を通じて視聴者の知る権利にこたえる。
1. 「ふるさとのテレビ」として地域密着を最優先に、良質な番組制作やイベント・事業を通じて、市民生活に役立つ情報と健全な娯楽を提供する。
1. ライフラインとしての使命を自覚し、地域の安全・安心の確保に努める。
1. 放送局として自主・自立を守るため経営の安定を図る。

<基本方針>

1. 安全な制作体制のもと、自社制作番組のさらなる充実を図り、視聴率の強化に努める。
1. コンプライアンスの推進と放送倫理教育を徹底し、プロフェッショナルとしてふさわしい放送人の育成を進める。
1. 働き方の見直しなど、健全で健康な労働環境の実現に取り組む。
1. 東海テレビ、グループ会社、協力会社とのコミュニケーションを密にし、活気ある職場作りに努める。
1. 集中と選択を推し進め、チャレンジ精神を大切に新規事業の創出などに取り組む。
1. 4K、8Kなど新技術に適切に対応するとともに放送とインターネットの新たな関係を構築する。
1. 災害時の放送事業継続のため、引き続き設備等の強化を図る。
1. 震災被災地への支援を継続する。

目次	P 1.ごあいさつ	P12.放送を通じた地域貢献
	P 2.ビジョン・目次	P15.その他地域貢献
	P 3.新型コロナウイルスと向き合う	P18.視聴者の皆さまとともに
	P 7.岩手県をはじめとした 被災地支援の取り組み	P20.第三者意見Ⅱ
	P 9.放送倫理意識向上に関する取り組み	P21.この1年の取り組み
	P11.第三者意見Ⅰ	P22.おわりに

新型コロナウイルスと向き合う

この1年の後半は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、番組の休止や差し替え、イベントの中止・延期など、視聴者の皆さまに配慮しながら対応することになりました。また社内で感染を未然に防ぐため各種対策も講じることになりました。

社内感染予防の取り組み

総務部 鈴木 誠

日々情報を提供する報道機関として放送を止めることがないよう、社内から感染者を出すわけにはいかない。そのためには何をすればいいのか。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、東海テレビでは放送の継続と、役員・従業員・協力会社スタッフの安全確保をBCP=事業継続計画の重要事項に掲げ、様々な感染防止の取り組みを行ってきました。社内での手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用などを徹底するとともに、万一感染者が出た場合を想定し「感染症対応マニュアル」を作成しました。2月に発足した新型コロナウイルス対策室の主導で、各部署の所属長が中心になり部署ごとの対応策のシミュレーションに努めました。さらに4月に入り東海三県で独自の緊急事態宣言が発出されたのを受け、社長を本部長とする新型コロナウイルス対策本部を設置、対策委員の発令、主管部ごとの対策案をさらに点検し充実しました。具体的にはテレワークや時差出勤の推奨、出張の自粛、来客制限、本社屋玄関出入り規制、分室の設置、出退勤時の自転車・自家用車の使用許可などを決定しました。この他リモートインフラを整え、出張を伴う社内会議はテレビ会議を活用するにしました。この間、番組出演者に感染などが発生したため社内施設の消毒を実施しましたが、従業員やスタッフの感染には至っていません。

すでに緊急事態宣言は解除されていますが、第二波の発生など予断を許さない状況は続きます。今後も感染予防に向け万全の対策を取りながら、放送継続という使命を果たしてまいります。

緊急事態宣言発出中
正面玄関に掲示した案内

視聴者のニーズに沿った番組を

編成部 渡部 克彦

1月下旬から新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が始まり、緊急事態宣言発令などの影響で、テレビ業界は未曾有の事態に直面しています。番組内容の差し替えや、ロケの中止、リモート出演、ドラマ撮影の中断…。日々状況が刻々と変化していく中、番組の内容や放送プログラムを主管している私たち編成部としても様々な対応を迫られました。

「視聴者が必要としている情報を正確で迅速に伝えるにはどうすればいいのか?」「外出自粛が続き、「コロナ疲れ」が出ている視聴者を少しでも元気づけるには?」「不安な毎日を送っている視聴者が本当に知りたい情報は何か?」

想定外の状況でイレギュラーな対応が続く中、社会の空気感、視聴者の気持ちに沿った番組編成を模索する日々が今も続いています。今後再流行の懸念もあり、しばらくは状況に応じて臨機応変な対応が続くことになりそうですが、あらゆることに目を配り、ミス、漏れのないように指差し確認も徹底し、視聴者の皆さまに支持される放送を目指していきます。

新型コロナ対応の具体例

■スイッチ!

東京・大阪のタレントのスタジオ出演を見合わせ、MCのアナウンサー中心に2班集体体で対応。
長らく学校の休校が続いたため、自宅での学習支援として塾講師らによる「おうち小テスト」を実施。

■ぐっさん家

放送開始から18年目で初めて、長期間にわたってロケができない事態に。過去の傑作選を編成。

■オトナの土ドラ

当初6月放送を予定していた作品の撮影が4月中旬で中断。代替番組として、2017年制作「犯罪症候群 Season2」を編成。その後のラインナップも大幅見直し。

■スポーツドキュメンタリーSP

プロ野球や男女ゴルフトーナメントが開催されない中、「石川遼 誰にも描けないシナリオの真実」などスポーツドキュメンタリー傑作選3作品を編成。

■キャンペーンスポット

コロナ禍で放送局としてポジティブなメッセージを発信しようとして、「イチッチーエクササイズ」「高井さんのステイホーム実況中継」など様々なパターンのスポットを制作、放送。

コロナとテレビ One 報道部 伏原 健之

テレビ局の取材は「不要不急」なのか、「緊急必要」なのか。

この問いに対し、悩みに悩みました。緊急事態宣言が出た時、私たちの仕事は「社会にとって必要である」と、胸を張っていえるのか、正直自信がありませんでした。私たちが取材を続ける



ことで、感染拡大のリスクが生じる可能性は否定できないからです。その一方で、感染者数、外出自粛、医療崩壊、休業要請、生活給付金、経済対策、これまで体験したことがないほどの大量の情報が流れてきました。結局、悩んでいる余裕などありませんでした。報道の基本に立ち返り、情報をできるだけ速く、正確に、丁寧に、誠実に放送を続けることしかありませんでした。東海三県の知事に生中継で出演してもらい、最新情報や方針を、しっかりと語ってもらいました。感染症の専門家には何度も取材しました。感染者の情報は、迅速に報道し、テレビだけでなく、ネットでも詳細に掲載しました。刻々と変わる、生活情報はL字を使って、随時発信しました。

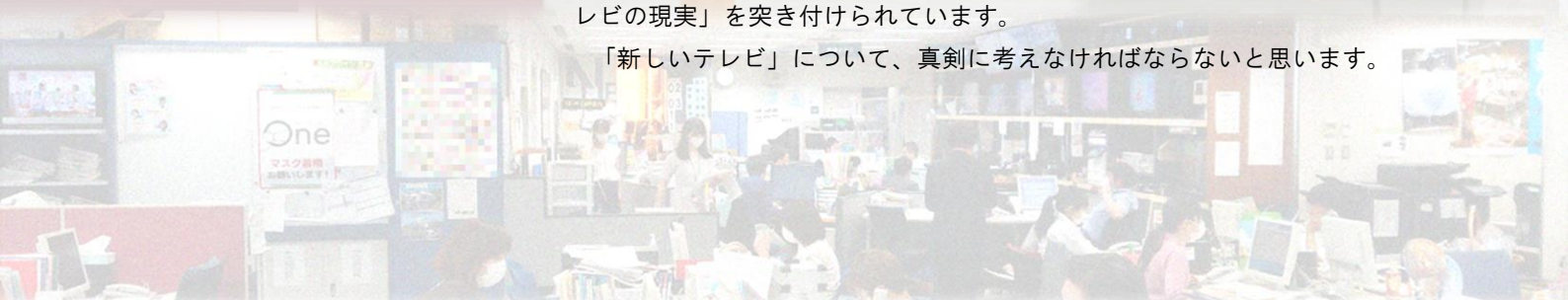
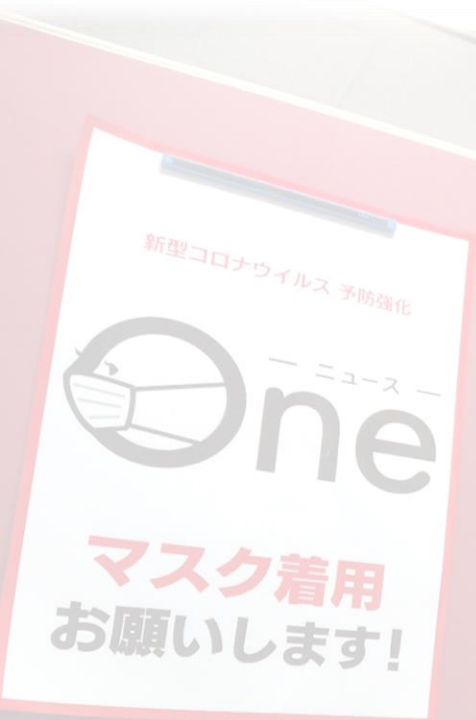


そんな中で、4月以降、番組に寄せられるメールが急増しました。私たちに對する批判や苦情もありましたが、「こんな情報がある」「これを調べてほしい」「こういう問題を取り上げてほしい」「こんな活動を紹介してほしい」などといった情報提供や、要望が数多く寄せられました。

こうした声に、できる限り応えるよう取材をしました。視聴者の皆さんが、日々感じている苦しみ、悩みや、地域で起きている事を、できるだけ「共有」したいと思いました。これまで私たちは、自分たちが作ったニュースや番組に「共感」してもらおうと、あの手この手でがんばってきたように思います。しかし、分かりやすい「共感」を求めるあまり、多様な意見や考えを単純化させ、同調圧力につながり、とすれば感情の押し売りになっていたのかもしれない。放送を通じて、喜怒哀楽といった感情の「共有」をすることで、地域の人たちとのつながりが見えてきました。

しかし、こうした綺麗事だけでは済まされない、様々な問題が噴出し、解決の糸口すら見えていないのが現実です。コロナによって、これまで先送りにしてきた「テレビの現実」を突き付けられています。

「新しいテレビ」について、真剣に考えなければならないと思います。



コロナ禍の「新しい制作体制」を模索して

スイッチ! 制作部 伊藤 芳人

番組スタート以来、「安全・安心」な放送をこころがけてきた「スイッチ!」。8年目にはいった今年4月、放送継続が危ぶまれる事態が起きました。出演者の1人が「新型コロナウイルス」に感染したことが分かったのです。

本人は感染に気づかず、発症の翌日、スタジオに生出演。

一報を聞いた時は、番組内でのクラスター感染が頭をよぎりました。日々の情報を届ける番組として、放送を休止するわけにはいかない…。この瞬間から、感染を広げない体制づくりに奔走することになりました。



濃厚接触者に認定されたスタッフは、接触から2週間過ぎるまで自宅待機。接触が疑われるスタッフも健康観察を行いました。MCは1人ずつ週替わりで担当、スタジオの出演者も減りました。保健所に密と判断された、放送前の打ち合わせは取りやめに。放送中、スタジオの扉を開放し換気も徹底しました。番組から

他へ感染を広げないよう、不特定多数の人に接する街頭インタビューも自粛することにしました。

頭を悩ませたのは、生放送にかかわるスタッフの数です。クラスターを避けるため極力減らさなければいけません、減らしすぎると放送事故を招きかねない…。優先順位をつけ、比較的生対応に影響が出ないスタッフを減らすことにしました。

幸い、これまで他の感染者は出ていません。放送も滞りなく行うことができます。ですが外部との接触の機会が多い制作現場は、常に感染リスクと隣り合わせです。

スタッフ、そして番組協力者の安全を守り、安全・安心な放送をするために、どのような制作体制をとったらいいのか、日々模索しながら番組作りを続けています。



新型コロナに対応しながら生放送を進行

こういう時こそ新たなアイデアで勝負

ドラHOT+ スポーツ部 伊貝 純矢

新型コロナウイルスの影響で、働き方や番組制作において様々な変化のあった1年となりました。番組MC峰竜太さんのリモート出演に始まり、選手のリモートインタビューなど、



これまでの番組制作において、あり得なかったことが次々と起こりました。ドラゴンズの練習そのもの、

1か月以上2人ひと組でやる自主トレのようなものになってしまい、選手のインタビューも基本的にNG。これに伴い番組の内容も“〇〇の名場面”“思い出の〇〇”など、過去の素材をベースにしたものにせざるを得ませんでした。


緊急事態宣言が出されていたこともあり、自宅で過ごす人たちが多くなっていました。そこで野球ができない子どもたちに少しでも喜んでもらおうと、自宅のできる素振りやシャドーピッチングを動画で投稿してもらい、「ドラHOT+」自慢の解説陣にワンポイントアドバイスをしてもらい、「レジェンドチェック」というコーナーを新たに始めました。これまで番組で子どもたちを取り上げることはありませんでしたが、この企画は予想以上に反響があり、たくさんの応募がありました。ただ放送で紹介できる人数には限りがあります。そこで新しくサービスが始まった動画配信サイトL o c i p oを活用します。放送できなかった子どもたちをこれからどんどん紹介し、レジェンドのアドバイスを多くの人たちにご覧いただけたらと考えています。

4月からスタジオもリニューアルした「ドラHOT+」、新型コロナ禍を経験したことをプラスにとらえ、これまでの常識を改めて疑いながら、新しいことに挑戦していきます。



新セットでリモート放送

「#おうちで過ごそう」キャンペーン

 宣伝部 鎌田 麗香

新型コロナウイルス感染が拡大し、緊急事態宣言が発出された2020年春、宣伝部では「#おうちで過ごそう」キャンペーンCMを制作しました。子どもたちにも伝わりやすく、家での過ごし方のアイデアなどを盛り込むために一役買ったのは我らがイッチー。そして斉藤誠征アナウンサーにも協力してもらい、一緒に体を動かしたり、植物を楽しんだりするひとコマを撮影しました。

コロナ禍で日々情勢が変わる中でのメッセージ発信ということで、心がけたのは「見ている人の心が疲れないこと」。強いメッセージはあえて発信せず「おうち生活を楽しもう」と優しく伝えることに重きを置いて制作。イッチーの癒し系のフォルムとハッピーなオーラで、ほのぼのの感が出たCMは、視聴者にも届いたことと思います。その他にも、「脳トレ」や柴田美奈アナウンサーとのエクササイズなど、CMという形での発信は、コロナ禍での窮屈な生活に、ほんの少しお役に立てたかもしれません。

CMの多くは社内でも撮影されましたが、多くの従業員が「イッチー、可愛い」と声をかけてくれ、その顔からは笑みがこぼれていました。もちろん、この1年、東海地方の様々な場所に出かけて行ったイッチーのまわりにも笑顔があふれていました。これからも東海テレビが地域で愛される局でありつづけるよう、番組やイベントの発信とともに、イッチーと宣伝部も邁進していきます。

新型コロナの情報もお届けします

 お医者さん検索 事業開発部 中村 武史

2017年10月から開始した「お医者さん検索」サービスも3年目に突入しました。「お医者さん検索」は、視聴者がテレビのデータ放送とPC・スマホで、近所の医療施設を検索できるサービスです。

視聴者の皆さんからは、夜間や休日などの在宅時、「これから診てもらえる診療所」を検索したい場合などに役立てていただいております。特に新型コロナウイルスが東海地方にも拡大した2020年3月以降、アクセスが急増しました。

そこで5月からデータ放送の「お医者さん検索」の中に「新型コロナウイルス相談窓口情報」を設けました。愛知、岐阜、三重各県の複数ある保健所などの相談窓口の電話番号を、データ放送の特殊機能を利用して紹介しています。さらに、サービス開始と同時に、パソコンやスマートフォンに慣れていない高齢者に使っていただくため、データ放送の利用方法に関するCMを制作し放送、広く普及に努めました。

この取り組みによりサービスの利用者がさらに増えました。健康にまつわる情報、特に医療情報は万人の関心事であり、正確な情報を、様々な形で視聴者に伝えることがローカル地上波の重要な使命であることを改めて実感しています。



東海テレビ お医者さん検索

チェックを
してきましょう。

新型コロナウイルス相談窓口

<愛知県> **新型コロナウイルス相談窓口** 各種検診 くわしくは決定ボタン

新型コロナウイルス相談窓口

新型コロナウイルスに関する相談窓口のお知らせ
開設時間 平日：午前9時から午後5時まで
一部：夜間・土、日、祝日：オンコール（24時間）体制

詳しくは、リモコンの決定ボタンを押してください

岩手県をはじめとした被災地支援の取り組み

2011年8月4日の「ぴーかん問題」から9年が経ちました。当時の放送で視聴者の皆さま、関係者の皆さまはいうに及ばず、とりわけ岩手県をはじめとする被災地の皆さまには多大なご迷惑をおかけしました。この時の反省を踏まえた被災地支援は、放送やイベントなどを通じ、現在も取り組んでいます。

「伝えてほしい」

秘書室 野瀬 義仁

「ひとりには金庫の鍵を持って、金庫の中で。もうひとりには女性従業員で、まだ20代でしたが玄関の鍵を閉めて屋上に上がろうとしたところで…。責任感が強かったから…。鍵を閉めていて逃げるのが間に合わなかったのかな」。

絞り出すような声でこう話されたのは、JA岩手県中央会の副会長。2011年3月11日の東日本大震災当時、岩手県三陸沿岸のJA釜石を傘下に持つ組合長をしていたそうです。あの日、釜石市には10メートルから20メートルにも達する大津波が何度も押し寄せ、JA釜石では従業員2人が犠牲になったそうです。話をうかがったのは、2019年7月29日、小島社長が1年の報告のために岩手県のJAを訪れた時のこと。小島社長にとっては初めての岩手県訪問でした。副会長はこう続けました。「経営者として従業員を亡くしたことは痛恨の出来事です。命は大事。いまでも忘れたことはありません。そして「どうかマスコミで命の大切さを伝えて下さい」と。

翌日訪れた三陸沿岸の被災地・陸前高田市。市街地は10メートル近くもかさ上げされ、堤防も巨大になって、すっかり姿を変えました。そして釜石市では昨年秋にラグビーW杯が開催され、世界中に震災からの復興をアピールしました。被災地を訪れるたびに復興は進んでいて、目に見える震災の傷跡はどんどん少なくなってきました。だからこそ前日の別れ際に副会長からいわれた言葉が心に残ります。「東日本大震災から9年になりますが、私たちにはまだ9年です。これからも形を変えて被災地のことを伝えていってください」。

2020年3月13日 ニュースOne「大谷主義」より



大谷主義「東日本大震災から9年 福島の今」 One 報道部 小室 拓人

2月末日、政府から全国の小中学校に休校要請が出されました。福島県川俣町の山木屋中学校へ取材に行く前夜でした。首相会見をテレビで見た学校長から「明日の取材を遠慮してほしい」と、すぐさま携帯に連絡が入りました。「取材ができなくても、今年も学校には行きます・・・」。そんなやりとりから再び福島を訪ねることになりました。

翌日、「極力短時間で」という条件付きでしたが、授業風景や間近に控えた卒業式の予行演習まで取材させてもらえました。後日、町役場で偶然会った教育長は「今年、福島の中学の卒業生は、小学校の入学式も満足にできなかった子どもたちだから・・・」。最終的に取材を許可したのは、教育長の鶴の一声だったようです。気づかされるものがありました。

東日本大震災から9年・・・「新型コロナ」一色の報道の中、自分の中でも被災地の子どもたちの心に刻まれた小さな歴史を忘れていました。ニュースの現場にいると大きな出来事で、過去の小さな歴史を上書きしてしまいがちです。ぴーかん問題から来年で10年、東海テレビにも忘れられている社員の小さな歴史があるのかもしれませんが。それを振り返ることが必要なことだと思います。



山木屋中の3人の卒業生

ふるさとイッチー祭

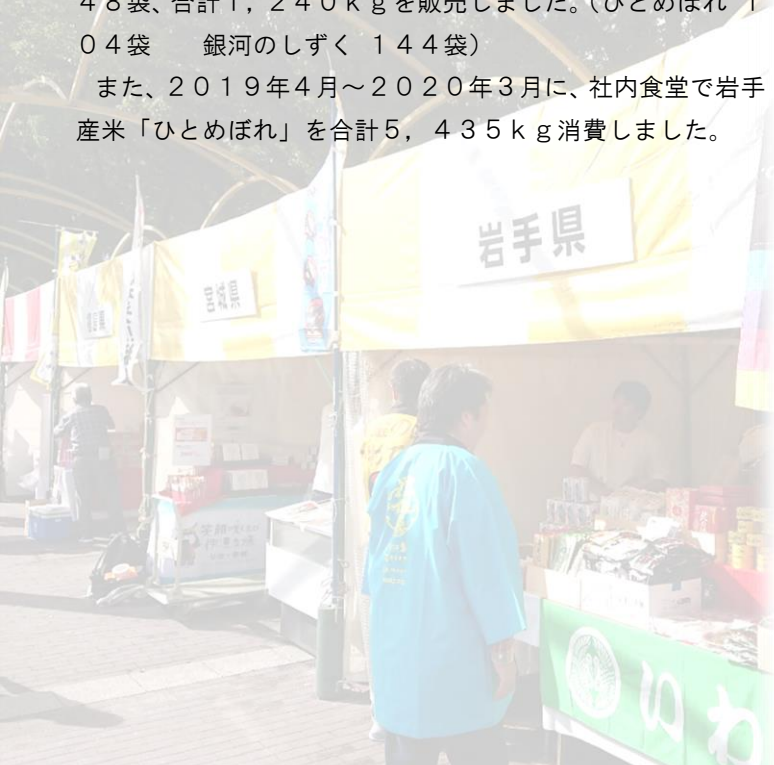
イッチー祭では東北3県（岩手・宮城・福島）と熊本県にブースを出展していただきました。「復興支援ブース」として特産品の販売や観光PRなどをしていただき、多くの方が訪れました。



岩手米の社内販売と社員食堂での消費

東海テレビでは岩手県の震災復興支援の一環として、2019年10月～11月に岩手産米「ひとめぼれ」、「銀河のしずく」新米の社内販売を実施し、5kg入り3,300円を248袋、合計1,240kgを販売しました。（ひとめぼれ 104袋 銀河のしずく 144袋）

また、2019年4月～2020年3月に、社内食堂で岩手産米「ひとめぼれ」を合計5,435kg消費しました。



東海テレビ福祉文化事業団



社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団は1979年に設立し、昨年40年を迎えました。この間、東海地方の障がい者や高齢者、子どもの福祉向上や社会参加支援のために様々な活動を続けてきました。主な取り組みとして年間を通じた「愛の鈴 しあわせキャンペーン」や、年の瀬の「愛の鈴年末助け合い運動」の募金活動を実施しています。また、東海3県の障がい者福祉に携わっている社会福祉団体に対する軽自動車「愛の鈴号」の寄贈や、身体のハンディを克服し社会的に自立・活躍している地域在住の方々に「東海テレビひまわり賞」を顕彰しています。

福祉事業のほか、被災地支援にも力を入れています。2011年に発生した東日本大震災の発災直後からこれまで合計約1億2千6百万円をお寄せいただき、被災地の復興支援に役立てていただいています。このほか、昨年10月に甚大な被害をもたらした台風19号では、約170万円の義援金を長野県などの被災地に寄託しました。これからも地元の福祉の充実や被災地支援のために力を注いでまいります。

この1年にお伝えした被災地支援の主な番組

One

- 8/26 「岩手まるごとおもてなし隊 物産展PR」
- 11/13 「美味 台風にも負けるな！大東北展」
- 11/28 「奇跡の一本松」 クロウンの松が名古屋へ
- 1/11 「東日本被災地の干し柿チーズケーキ」
- 2/20 「岩手JAが伊勢神宮に豊年祈願」
- 3/11 「東日本大震災から9年」
- 3/13 大谷主義「東日本大震災 福島」

SWITCH スイッチ!

- 6/5 「山形県の観光と物産展」 名鉄百貨店
- 8/28 「岩手県の観光と物産展」 名鉄百貨店
- 9/5 「松本伊代のクイズジャーニー 福島・会津若松編」
- 11/12 「第9回大東北展」 ジェイアール名古屋タカシマヤ

放送倫理意識向上に関する取り組み

「ぴーかん問題」を教訓に、放送倫理意識を高める活動を継続しています。放送を巡る環境は激変し、視聴者からもより厳しい視線が注がれるようになりました。定期的に集会や研修会を開くとともに、その活動は第三者組織にチェックしていただいています。ここでは放送倫理向上・醸成に関する取り組みについてご報告します。

放送倫理を考える全社集会

「2011年8月4日のぴーかん問題を風化させない」をテーマに、翌年から続けている「放送倫理を考える全社集会」。2019年度は8月2日に開催し、役員・従業員・協力会社スタッフなど合わせて359人が参加しました。

この会では毎年、社内で起きた放送倫理違反につながりかねないヒヤリ・ハット事例を共有する時間を設けており、この日は5つの部署が報告しました。

従業員はもちろんのこと、社外の方々も出席している集会でデリケートな事案を赤裸々に話す会社は決して多くはないと思います。とはいえ、報告者の生の声からは、事案を経験した人にしか分からない当時の痛みや、再発防止を考える際の苦労が伝わってきます。集会に参加した一人ひとりがこうした思いを受け止め、今後の仕事に生かしてもらいたい、そんな思いで地道に続けているのがこの全社集会です。

「一人ひとりの倫理観が会社の倫理観を作る。」冒頭のあいさつで、小島社長はこのように話しました。個々が意識することで組織全体の倫理意識向上につながるよう、集会が少しでも役に立てばと思っています。



放送倫理を考える全社集会 2019年8月2日

放送人研修会

全社集会に先立つ7月25日、2019年度の放送人研修会を開催しました。この日はLGBTを中心とした多様性をテーマに、東海テレビの番組審議会委員を務めていただいている福谷朋子弁護士を講師にお招きしました。

性は「グラデーション」というとらえ方は、「男性と女性」としか教えてこられなかった人たちにはすぐには理解できない、というのが正直なところだったかもしれません。しかし研修会で「13人に1人はLGBT」というデータを示され、実はとても身近なのだということを改めて実感しました。



講師 福谷 朋子 弁護士

「私はゲイです」「私はトランスジェンダーです」と笑いながらインタビューに答える人たちの映像を見ると、時代も社会も着実に変わっていることが分かります。最近ではLGBTの関係性や心の機微を巧みに捉え、視聴者の共感を得たドラマが数多く放送されています。ただ、中には知られたくないと思っている人がいるのも事実です。当事者の気持ちを慮ることなく表現すれば、場合によってはプライバシーの侵害や差別につながります。誰とでも「あなたのままでいいんだよ」と認め合う、程よい距離感をつくり出すことが何より大事なのだと感じます。

この日は役員・従業員・協力会社スタッフなど合わせて243人が参加。多様性を理解し差別や誤解をなくすために、メディアとしてどう表現し、何を発信していけばいいのか、研修会はこれらの課題を深く考えるきっかけとなりました。

コンプライアンス責任者会議

東海テレビすべての部署のライン部長は「コンプライアンス責任者」として、各部署の業務を管理すると同時に、コンプライアンスや放送倫理という視点で指導監督する責務を負っています。コンプライアンス責任者会議は3か月に一回、全ての部署の責任者とグループ会社の担当者が出席し開催しています。各部署で発生したトラブル事案から小さなヒヤリ・ハット事例まで議題に取り上げて情報共有するとともに、いざという時の連携強化を図る機会としています。また、別途実施している情報セキュリティ・個人情報に関する内部監査や業務リスク調査などとも連動し、事故防止と有事の際にも迅速に判断・対応できる企業風土づくりを目指しています。新型コロナウイルス流行時は感染者が出ないように、会場を分散しリモート開催するなど工夫しました。



5月29日 会場を分散して開催したコンプライアンス責任者会議

コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は社長をはじめ、役員・局長・グループ会社のコンプライアンス担当役員・労働組合代表を構成メンバーに半年に一回開いています。コンプライアンス責任者会議で行われた議論などをベースに、会社運営に必要な法令上の課題について話し合われています。2019年9月の委員会では、「情報セキュリティ規程」の改定、公式SNSの運用に関する注意喚起、パワハラ対策法制化に向けた対応について、また2020年3月には新型コロナウイルス感染症への対応、パワハラ防止法施行を前にした注意点などを議題に取り上げました。それぞれの留意点について顧問弁護士から解説してもらい、経営層の意識向上に努めたとともに、職制を通じ情報共有を図りました。



半年に一度開催するコンプライアンス委員会

第三者組織 オンブズ東海

2012年に発足したオンブズ東海は、東海テレビが独自に運営している第三者組織です。オンブズ東海は自社制作番組の制作過程やイベント運営のあり方などについて、現在、マスコミ・法律・消費者経済の専門家3人に委員を委嘱しています。それぞれの専門の視点から、そして視聴者の立場からも確認していただいています。委員会は3か月に一回開催され、ここで出された意見は社内にフィードバックしてその後の業務に役立てています。またHPや検証番組「メッセージ1」を通じ、視聴者の皆さんにも活動を報告しています。

オ ン ブ ズ 東 海 委 員



坂井克彦委員長
(株)中日新聞社相談役

橋本修三委員
弁護士

東 珠実委員
椋山女学園大学
現代マネジメント学部
教授

コンプライアンス関連その他の取り組み

2019年

- 9月10日 新任部長級社員コンプライアンス研修
- 11月 5日 個人情報保護・情報セキュリティに関する内部監査(～11月28日)
- 12月 2日 業務リスク調査2019(～2月28日)

2020年

- 2月13日 標的型メール訓練
- 4月 2日 2020年度新入社員研修

また毎月社内報「コンプライアンス通信」を発行しています。情報セキュリティや個人情報の取り扱い、ハラスメントに関する注意喚起、ヒヤリ・ハット事例、BPO=放送倫理・番組向上機構の活動などを紹介し、従業員・グループ会社・協力会社の関係者の放送倫理やコンプライアンス意識醸成に努めています。

第 三 者 意 見 I

2016年からオンブズ東海の委員を務めていただいている
 椋山女学園大学の東珠実教授に、東海テレビのこの1年の取り組みについてご意見をいただきました。

今年の「放送倫理を考える日」は、新型コロナウイルス感染症対策の中で迎えることとなった。「オンブズ東海」においても、3月9日の第33回委員会、6月8日の第34回委員会の冒頭の議題で新型コロナウイルス感染症対策が取り上げられ、丁寧な説明がなされた。

東海テレビでは、2月下旬にいち早く「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を作成し社内イントラネットに公開するとともに、新型コロナウイルス対策室を設置し、対策会議を開催してその趣旨や各部署の対応について情報共有を図った。また、4月10日に東海三県独自の緊急事態宣言が発出されると、直ちに新型コロナウイルス対策本部を設置し、感染防止に向けた多面的な措置を講じるなど、周到な計画に基づいて迅速な対応を図ってきたことは、高い評価に値するだろう。

コロナ禍において報道機関の果たすべき役割は、きわめて大きい。緊急事態に直面し、人々は、常に正しく新しい情報を求めている。とはいえ、日常的にSNSからの情報収集に慣れ親しんでいる世代では、非常時においてもソーシャルメディアによる情報に依存しがちであり、その手軽さの一方で、時に誤った情報に振り回されたり、誤情報を拡散したりするなどして社会的な不安を煽ることも少なくない。コロナ禍においても、SNSで特定の商品が品薄になるとのデマ情報が流れ、消費者の買い占め行動を招いたり、根拠のない感染防止対策の拡散や、関係者への誹謗中傷による人権侵害などの問題が発生した。テレビ放送を始めとするマスメディアは、これらに対峙する存在でなければならない。

ビデオリサーチ（4月23日、6月16日のプレスリリース）によれば、コロナウイルスの感染が拡大した3月末からゴールデンウィークにかけて、テレビ視聴率やテレビ視聴量は前年同週比較で顕著に増加している。また、インターネット調査で「重視する情報源」を尋ねたところ、調査対象者の4分の3が「テレビ」を挙げ、「最も重視する情報源」についても、半数の人が「テレビ」と答えた。長い「おうち時間」において、テレビは家族で共有できる信頼するに足る情報源として再認識されたように思われる。とはいえ、公的機関がインターネットを通じて信頼性が高く、地域性や個別性にも配慮した情報を提供する昨今である。テレビ放送には、コンプライアンスや社会正義に依拠しつつ、事件や出来事を深く掘り下げ論評し、視聴者をエンパワーするようなジャーナリズムの役割を果たしてほしい。併せて、倫理的な価値観をもってSDGs時代の新しい文化や芸術の創造にも貢献する存在であってほしいと願うものである。

東 珠実（あずま たまみ）氏
 椋山女学園大学現代マネジメント学部教授。
 博士（商学）。日本消費者教育学会会長。
 専門は消費者教育、生活経営学。公職としては
 消費者庁消費者教育推進会議会長、静岡県消費生活
 審議会会長、滋賀県消費生活審議会会長などを
 務めている。



放送を通じた地域貢献

東海テレビは、この1年間で新しい番組を立ち上げたり、コーナー企画をリニューアルするなど、今まで以上に役に立ち楽しんでいただけるような番組作りに取り組んでいます。こうした番組作りについて制作・報道・スポーツの各番組の担当者より報告します。

日曜お昼の新しい情報バラエティ番組 **タイチサン!**

制作部 戸松 準



2020年2月、日曜お昼に新番組がスタートしました。

タイトルは「タイチサン! ～TAICHI+1ch+Sunday～」。MCである国分太一さんの名前(タイチ)、東海テレビの1チャンネル(イチ)、日曜日(サンデー)、その3つの言葉を合わせた番組タイトルです。

テーマは「東海エリアのざわめきを放っておかない!」

人・モノ・文化・グルメなど、地元で大人気のものや、これから話題になるような“ざわめく”情報を紹介します。

番組の司会は、老若男女誰からも愛されるTOKIOの国分太一さん。

実はジャニーズ事務所所属タレントさんがMCとして東海エリアでレギュラー番組を持つのは初めてのこと。

色々な場所を訪れることが大好きな太一さん。“東海エリアのざわめき”をどんどん吸収して、「東海人」になってもらおうと思います。自らも街に出て各地を見ながら、様々な方に出会っており、太一さんいわく「東海地区の素晴らしさを全国の皆さんにもお届けできるような番組にしていきたい」との意気込み。

我々スタッフ、出演者ともども、新しい番組にワクワクしています。

2020年に生まれたばかりの地元密着の情報バラエティ番組。日曜お昼に家族でのんびり、笑って、見ていただけるような、今の時代に合った楽しい番組に育てていこうと思います。



ドラマを通して地元の魅力を再発見

おかえり～とこわか町・伊勢～

制作部 猪飼 健夫

令和最初の正月、1月2日（木）午後2時から、エリアドラマの第二弾として「おかえり～とこわか町・伊勢～」を放送しました。撮影期間は8日間、全て伊勢市内、のべ250人を超えるエキストラの方に協力いただきました。

「とこわか」は「常若」と書き、伊勢神宮で20年に一度、社殿などを新しく造り替え大御神にお遷りいただく神事、式年遷宮の精神であるといわれています。約1300年続いている式年遷宮では、技術だけでなく先人の思いや教えが受け継がれてきました。その文化と精神が根付く伊勢を舞台に、日々新鮮な気持ちを持ちながら、変わることもない大切な思いを抱き生きていく尊さを伝えたいと制作にのぞみました。

伊勢といえば、物語にも出てくる伊勢神宮、夫婦岩など名所が多数ありますが、主な撮影地は外宮への参拝や物資輸送の要衝として栄えた町「河崎」。江戸時代に建てられた蔵も残り、初めて訪れた人でも、どこか懐かしい雰囲気を感じる町です。コロナが落ち着いたなら是非足を運んでみて下さい。式年遷宮の残材を用いる「伊勢春慶」の工房や、蔵を改装したカフェ、古民家風ゲストハウスだけではなく、生き生きとした人々との出会いが待っています。

東海地方には、魅力的な「ふるさと」がまだまだあります。これからも地元の魅力を再発見できるよう勉強し続けたいと思います。



視聴者の幅広い好みに応えられるように

オトナの土ドラ 東京制作部 松本 圭右

昨年12月期のオトナの土ドラ「悪魔の弁護士・御子柴礼司～贖罪の奏鳴曲～」は少年時代に5歳の少女を殺害した過去を持つ弁護士が主人公。文字面



で見れば「嫌悪感」しかない人物をどう描けば地上波で許されるのか。それが企画立ち上げ時からの課題でした。ただ、描くべきはセンセーショナルな背景ではなく、「少年法」や「ネット私刑」へのリアルな視線。描きたいことへの責任を制作陣はちゃんと背負わないとダメだと自分を戒め続けています。そんな戒めのお陰か、多くの視聴者に中身を評価していただいたことは、現場で頑張ったキャストやスタッフも胸を張れるのではないかと思います。



パパがもう一度恋をした

そんな「弁護士」とは真逆の「パパがもう一度恋をした」（2、3月放送）は思いつきはじけたヒューマンコメディ。こちらは原作にもある下ネタをどこまで表現する

か？原作だけ読むと本当にバカバカしい下品な下ネタ、と見えなくてもいいのですが、よくよく読み込んでいけばそこに「心も体も愛する」ことから逃げない主人公のまっすぐさが見えてきました。愛する妻の魂が「おっさん」の中に入ってしまったも純粋に愛し続ける究極の純愛がベースの物語。下ネタからも逃げるわけにはいきません。脚本家と試行錯誤をしながらワードのチョイスで七転八倒し、考査担当者をも巻き込みながら、下品にならない笑えるひとことを絞り出すのに皆でかなり力を注ぎました。

視聴者の方の好みは幅広いです。それに応えられるよう今後も責任をもってエンターテインメントをお届けします。

“障害”がなくなる日まで

見えない障害と生きる人たちの思い

報道部 桑山 知之

発達障害をテーマに描いた公共キャンペーンCM『見えない障害と生きる。』の放送後、想像をはるかに超える反響がありました。YouTubeの再生回数は140万回を超え、公開から1年以上経った今も毎日、苦しみを吐き出すようにして思いが綴られるコメント欄。全国各地から学校や施設、団体から「映像を流したい」との依頼も次から次へと舞い込んでいます。

CMの中でGOMESSさんはこう問いかけます。“言葉に騙されないで 障害は確かにあるけど 僕とあなたの間にあるその障害は 僕だけのものじゃないと思うんだよ”——。彼の書いた詞を初めて目にしたとき、胸を打ち抜かれたような気がしました。

その苦しみが見えづらい発達障害は、15人に1人という割合の高さに比べ、テレビで扱われることは多くありませんでした。このCMを見て「自分がこれまで苦しんできた理由が初めてわかった」と、泣きながら発達障害を打ち明けてくれた知人がいました。心が軽くなったと笑う顔を見て、どんな賞で評価されたときよりも嬉しかったことが忘れられません。

僕には伝えることしかできません。でも、伝えることで何かが変わることを知りました。次は“障害”がなくなるその日まで、伝えつづけようと思います。



夢の舞台を応援します 世界への約束

スポーツ部 吉野 健

2013年9月。2020年東京五輪の開催が決定したこの時から、スポーツ部も報道部と協力し、地元開催の晴れ舞台を目指す東海地方出身選手達を継続的に取材し、ニュースで取り上げてきました。2015年からは不定期ながらスポーツドキュメンタリー「世界への約束」で、アスリート自身の素顔により深く迫って来ました。迎えた2020年は、ギアを上げ本番の7月まで月一本のペースでの放送を目指し、1月、2月、3月…と放送を重ねました。しかし次第に新型コロナの影響で取材に制限が掛かるようになりました。そして五輪の1年延期、我々の取り組みも一旦ストップすることに。

個人としては、1月に女子マラソン代表に内定した鈴木亜由子選手（愛知県豊橋市出身）のドキュメンタリーを手掛けました。今年の正月に鈴木選手が地元豊橋の神社で「東京五輪で金メダル獲得」と誓った場面がラストシーン。彼女が中学生の頃から取材を始めておよそ15年。競技

スポーツドキュメンタリー
世界への約束2020



マラソンランナー 鈴木亜由子
出会いのチカラ

者人生の集大成ともいえる東京五輪でどんな物語を見せてくれるのか？それをまとめるのが使命だと感じ取り組んで来ましたが、先行きの見えない状況となり、「鈴木選手は不安ではないのか？元気にしているのだろうか？」と私も心穏やかではない時間が過ぎて行きました。そんな時に鈴木選手の座右の銘「得意淡然 失意泰然」を思い出し、いま出来ることをコツコツと積み重ねて行こうと決心しました。

まだ果たせていない世界への約束。「2021年の絵馬には何と書くのか？」。鈴木亜由子選手が、五輪のスタートラインに無事に立てることを心から願っています。



米国アルバカーキで合宿する鈴木亜由子選手

その他地域貢献

東海テレビでは報道・娯楽・スポーツなどの番組を日々お届けするとともに、有事の際の情報ライフラインとしての役割も担っています。最近では、このエリアの放送局との共同事業にも積極的に取り組んでいます。また放送に限らず、イベントや社会貢献活動を通じ、この地域の文化向上にも努めています。

日本初・「名古屋モデル」運用開始…

4局ヘリ合同飛行訓練 報道部 松井 大地

南海トラフ巨大地震が懸念される中、在名民放4局＝東海テレビ、中京テレビ、CBCテレビ、メーテレが災害時にヘリ取材に関して連携する取り組み、通称「名古屋モデル」がスタートしました。具体的には発災から原則24時間は、4局でヘリの飛行区域を分担し、映像を共有することで、広い海岸線に襲来する津波の様子を多角的に捉え、「一人でも多くの命を守る」という報道機関の使命を実践するための取り組みです。



ニューススタジオでの訓練風景

6月の運用開始とともに、4局のヘリコプターを同時に飛行させる訓練も実施することに。

この「史上初」の取り組みに向けて4局の防災担当者は数か月間、連日協議を重ね、訓練に向けた課題や実際の飛行の際の問題点などさまざまな課題をクリアしていきました。また運用開始に先立ち4局で連絡を取り合うための専用無線（MCA無線）も購入。無線の訓練だけでも十数回繰り返し、実践に備えました。

12月14日、系列各局や新聞通信各社やNHK、大学教授らも集まる中に行われた訓練当日。事前の調整の甲斐もあり、無事4局のヘリ映像が報道部に次々と送り込まれました。

とはいえ4局同時に送られる映像をどう災害放送に結び付けるのか、撮影は分散しても4局同じような映像を流すのでは…など見えてきた課題も多くありました。今後も訓練を重ねつつ、よりよい災害報道につなげていく努力を重ねていきます。



離陸前の各局ヘリコプター

エリア局のコンテンツをスマホでも

Locipoスタート

コンテンツビジネスセンター 佐久間 洋和

2020年3月27日、在名4局（東海テレビ・CBCテレビ・中京テレビ・テレビ愛知）共同での動画配信プラットフォーム「Locipo」（ロキポ）がスタートしました。Locipoの語源は、ラテン語のローカル（地域）を意味する“Locci”と英語で入り口を意味する“Portal”を組合せた造語です。Locipoは、在名4局が持っている番組などのコンテンツを一つにまとめ、地域の視聴者にとって便利で、日々楽しく利用していただくことを目的としたサービスです。東海テレビからは、「SKE48のバズらせます!!」などの人気番組をはじめ、「スイッチ!」のコーナー企画や地域のニュース・情報を提供していて、スマートフォンでも気軽にご覧いただくことができます。

また、「Locipo」はLIVE配信機能も備えており、災害発生時などの緊急情報を視聴の皆さまに配信することができます。スマートフォンの利用者向けには、アプリを準備しています。アプリは無料でダウンロードいただくことができます。今後、コンテンツを増やしながら地元の皆さまに楽しんでいただける機能を追加していく予定です。

Locipo ロキポ



地域文化の向上のために 事業イベント

事業部 田中 聡

事業部ではこの1年も数多くの地元密着の催事を行ってきました。

展覧会では、名古屋市博物館でスヌーピーミュージアム展を2019年6月22日(土)から9月1日(日)まで60日間開催し、17万7487



スヌーピーミュージアム展

人の方にお越しいただきました。これは期間限定で東京・六本木に開館した「スヌーピーミュージアム」の魅力を凝縮した特別展でしたが、おかげをもちまして名古屋市博物館の歴代3位の動員記録となりました。また、9月・10月に松坂屋美術館で行われた木梨憲武展も11万7479人を集め、アーティストとしても活躍する木梨さんデザインの物販アイテムも大いに話題になりました。

スポーツ催事では、渋野日向子選手の大逆転で幕を閉じた50回記念大会のデサントレディース東海クラシックは総入場者数2万4,915人と男女分離開催以降、歴代最多の来場となり盛り上がりました。そして地元出身のフィギュアスケーターとして愛されている浅田真央さんのサンクスツアー2019は、当初予定していた12月14日(土)、15日(日)の4公演は即日完売。急遽、13日夜に追加公演を組むほどの人気を集めました。

この他、地元だけでなく遠くからお越しいただいた皆さまに楽しんでいただける多くのイベントをお届け出来た一方、2020年4月以降の催事に関しては、残念ながらコロナウイルスの感染拡大により延期・中止となっています。事態が終息を迎えた時には、新しい時代にマッチした、この地域を明るくするようなイベントをお届けしたいと思っています。



デサントレディース東海クラシック

日頃の感謝を込めて ふるさとイッチー祭

営業推進部 古田 直樹



毎年秋に、名古屋の中心部にある大規模な公園(広場)を会場に、視聴者や地域の方々に感謝の思いを込めて開くイベント「ふるさとイッチー祭」。2019年は10月26日(土)と27日(日)の2日間、当社のキャッチフレーズ「ふるさとイチバン!」をテーマに開催しました。天候にも恵まれて2日間で計15万人余りが来場し、お楽しみいただきました。

地元の祭をイメージし、当社のキャラクターであるイッチーの巨大モニュメントを設置した広場は「イッチーえんにち」として子どもたちにも楽しんでもらえる企画を展開、もう1つの広場は「ばんぐみえんにち」と名付け、自社制作番組のブースなどが並びました。



そして、特設ステージでは情報番組「スイッチ!スペシャル」やバラエティ番組の生放送に公開収録、人気アイドルグループのLIVEなどを開催しました。

祭では協賛社のブースのほか、地元の人気飲食店や特産品販売の方々に出展していただく場も設けました。普段テレビは局側からの一方通行の情報が多いと思いますが、祭は来場者や出展者の皆さまと直接触れ合える貴重な場と位置付け、全社を挙げて取り組んでいます。

ふるさとイッチー祭



声を出し元気を支えたい ぐらしの作文 新聞音読 アナウンス部 庄野 俊哉

CSR活動は2019年後半で5年目に入り、当初から続けてきた中日新聞「ぐらしの作文・新聞音読」も、2019年の大みそかで1500回読破を迎えました。

放送局として、一人の語り手として出来るCSRとは何かを考え、毎日続けてきたことですが、「お腹から声を出して元気に」を合言葉に、高齢の方々を中心に学生までの幅広い世代に支えていただき、何とか続けることが出来ました。

ただ、その音読を題材に各地で開催してきた「音読の会」は、2020年2月の名古屋市港図書館主催の事業を最後に、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できずにいます。延期したものの中には、2学年全員を対象にした、中学校の出張授業も含まれます。さらに2020年度には、毎月をベースにした活動として、名古屋市中区社協の「高齢者はつつ事業」の一環として「音読部」という部活動を新たに始める予定でした。

ところがこの状況で、対面集会形式が難しくなり、現在は月一回各部門と電話をつないでの、音読指導という形をとっています。

ただ、この電話を心待ちにしてくださる方も多く、発想を逆転させコロナ禍の中「高齢者の健康を保ち、孤立を無くすこと」を2020年度のCSR目標に掲げたいと思っています。



2020年2月15日 港区図書館

テレビと教育の新たな化学反応を 愛知教育大学と連携協定 コンプライアンス推進部 梅村 育宏

東海テレビは愛知教育大学と連携し、地域の社会貢献活動に取り組むことになりました。2019年10月16日、両者のトップが調印式に臨み、産学一体のコラボレーションがスタートしました。

さっそく、庄野俊哉アナウンサーが指導に関わっていた、愛教大の学生で作る子ども向け読書応援団体が、協定締結後最初の成果を披露することに。10月19日、名古屋市内で開かれたイベントで学生の皆さんは4つの絵本を朗読、多くの親子に楽しいひとときを過ごしていただきました。

今後も東海テレビと愛知教育大学双方に有意義で、地域社会の教育文化にも貢献できる活動を進めてまいります。



2019年10月16日 協定調印式

テレビの魅力を若い世代に 社内見学会 コンプライアンス推進部 谷口 雄二

2016年6月から、地元の小中学生と高校生などを対象に実施している社内見学。2019年度は東海三県の中学校21校、小学校・高校それぞれ2校の、合わせて25校・200人余りの児童・生徒に東海テレビにお越しいただきました。生放送番組のスタジオ見学中、進行を見守る皆さんは緊張そのもの。それでも放送が終わればリラックスした様子で、MCの藤本晶子・速水里彩両アナウンサーや、番組ディレクターとの質疑応答を楽しんでいるようです。

また、スタジオカメラを実際に操作してもらう時間になると、普段触ることのない機材に興味津々の表情を見せてくれます。この他、美術倉庫のバックヤードツアーも人気で、番組に登場する小道具を手にしたたり、被り物をかぶったりして記念撮影する生徒の姿もありました。画面からは見えないテレビの裏側を目の当たりにした参加者からは、「何気なく見ていた番組が、実は何十人もの手で作られていることに驚いた」「最初に見学した副調整室は、これぞテレビ局！という感じがしてとてもテンションが上がった」といった感想をいただいています。

若い世代のテレビ離れが叫ばれて久しいですが、今後も社内見学を通じテレビ局の仕事を体感していただければと思います。



情報番組「スイッチ！見学の様子」

視聴者の皆さまとともに

東海テレビには視聴者の皆さまから多くのメッセージが寄せられます。番組に対する意見や問い合わせ、誤った情報に対する指摘など様々です。皆さまからいただく幅広いご意見は、番組作りのヒントになったり、注意喚起になったりしています。私たちは視聴者の皆さまに支えられています。

東海テレビ放送番組審議会

東海テレビ放送番組審議会は、番組など放送全般についての客観的なご意見をいただく、放送法に基づく第三者機関です。東海テレビでは8月を除く毎月1回、番組審議のほか、東海テレビの放送全般についてご意見をいただいています。審議委員は現在10名で、財界、学术界、法曹界など様々な分野の方々に委嘱しており、性別比率は均等で年齢層も幅広いことから、多角的な視点で当社の放送を見つめていただいています。今年は5月に新型コロナウイルス感染防止のため、「書面開催」を実施しました。中でも、「新型コロナウイルス禍のテレビを見て思うこと」のテーマで、報道、情報番組や放送全般についてご意見をいただき、感染症下での番組制作、番組編成などの参考にしました。また、当社では番組審議のほか、テレビ全般について自由に発表をしていただく「きになるテレビ」という時間を設けています。「テレビに登場する女性像」「業界地図で見たテレビ局」など、昨今のテレビ番組の内容や、テレビメディアを取り巻く環境などについて幅広い知見から問題提起、アドバイスをいただいています。信頼される放送を目指し、第三者機関の意見を真摯に受け止め放送に生かせるよう努めています。

《東海テレビ放送番組審議会委員の皆さん》

2020年7月1日現在（50音順）

浅田 剛夫	委員 長	井村屋グループ(株)代表取締役会長
伊藤 彰彦	委員	東海旅客鉄道(株)専務執行役員
岡田 さや加	委員	柳ヶ瀬を楽しいまちにする(株)代表取締役社長
後藤 ひとみ	副委員 長	愛知教育大学特別執行役
柴田 浩	委員	(株)名鉄百貨店代表取締役社長
竹松 千華	委員	(有)IDF代表取締役
林 寛子	委員	(株)中日新聞社取締役
福谷 朋子	委員	弁護士
水谷 仁	委員	中部電力(株)代表取締役専務執行役員
山岡 耕春	委員	名古屋大学教授

視聴者対応窓口

ドラマ、ニュース、情報、バラエティ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者ご意見は「視聴者対応窓口」にいただいています。2019年度、窓口寄せられたメッセージは約3万1000件で、当社の番組、出演者への応援、要望、ご批判はもちろん、全国ネットの情報番組で展開される議論や発言に対して意見を伝えたい視聴者の方々も大勢いました。また、年度をまたぐ時期には新型コロナウイルス関連の番組に対するご意見、関連する情報をお寄せいただきました。寄せられた情報がきっかけでニュース取材につながったケースもあり、視聴者情報の大切さを改めて認識しています。

視聴者の皆さまからいただいたメッセージは、番組制作者、編成担当者などにフィードバックし、今後の番組制作、番組編成の参考にさせていただいています。

「視聴者対応窓口」では、視聴者の皆さまのご意見、ご批判をしっかりと聞きし、社内に伝えることで、役立てられるよう努めていきます。

検証番組「メッセージ1」

視聴者対応窓口でいただいたご意見は毎月第4日曜日、午前5時15分から放送している検証番組「メッセージ1」で一部紹介しています。この番組はほかにも番組審議会の概要、当社の様々な取り組みなどを紹介、報告し、東海テレビと視聴者の皆さまとの“橋渡し”の役割を担っています。

社外モニター

東海テレビの社外モニターは毎年度上期と下期、それぞれ10名の視聴者の方々をお願いしています。1か月4～5本の自社制作番組をご覧いただき率直な意見をいただいています。2019年度は51番組についてのご批判、称賛、様々なご意見をいただきました。性別や世代、職業やお住いの地域など様々な立場や視点から多様なご意見をいただき、番組作りのアイデアや番組編成のヒントなどを頂戴する機会となっています。

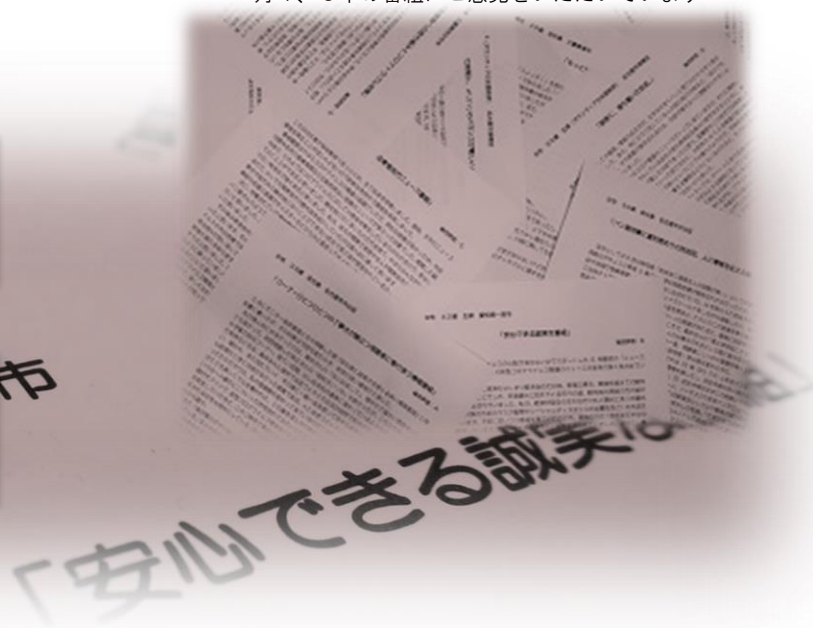
《東海テレビの社外モニターを経験して》（抜粋）

- ◆ 様々なジャンルの番組に出会えたことが良かった。新たな教養や考え方などに多く触れることができたと感じた。
- ◆ 自分の好みの番組の種類がわかり、興味の無かった番組にも、面白さを見出せた。

《テレビ全般に望むこと》

- ◆ 各局の番組が似通っていて、同じコメンテーターが別局、違う時間に生放送に出演していたが、それぞれのテレビ局の独自性を望みたい。
- ◆ 言葉の一部を切り取っただけで伝えるのではなく、前後の言葉も含め真意を報道してほしい。

月4、5本の番組にご意見をいただいています



第 三 者 意 見 Ⅱ

2011年8月の「ぴーかん問題」後、検証委員会特別委員、再生委員会委員長を務め、現在は東海テレビ社外アドバイザーをお願いしている上智大学文学部新聞学科の音好宏教授に、東海テレビのこの1年の取り組みについてご意見をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の流行は、日本の社会経済のさまざまなところに大打撃を与えている。

東海テレビでは、9年前の「ぴーかんテレビ不適切テロップ」事件以来、8月4日を「放送倫理を考える日」として、毎年、この時期に放送倫理を考える全社的な集会を開催するとともに、年に複数回、「放送人研修会」を継続的に開催するなど、放送倫理、コンプライアンスの向上に向けて、全社的な取り組みを行ってきた。

これらの一連の放送倫理、コンプライアンスの向上に向けた集会も、今年は新型コロナウイルス感染症の予防のため、中止を余儀なくされた。従業員の安全確保を考えれば、この判断は、致し方ないことだ。それゆえに、東海テレビの仕事に関わる一人ひとりが自覚を持って、放送倫理、コンプライアンスの向上に取り組むことが重要と考える。

というのも、政府が重点政策として掲げてきた「働き方改革」の推進状況や、それらの施策への対応状況の報告を見ても、この施策で掲げられた達成目標をクリアするために、組織的に弱い部署や弱い立場のスタッフのところに、その改革のしわ寄せがもたらされているといった指摘がなされている。このような指摘は、放送現場においても、一部で起こっているようだ。例えば、現在、総務省が検討・検証を進めている放送現場の制作取引のあり方に関するガイドライン整備のための調査報告や、そこでの議論を見ていると、「働き方改革」で示される目標値の達成のためのしわ寄せが、業務を請け負った外部の業者や契約スタッフにもたらされているケースが散見されている。

そのようななかで、直面したのが、新型コロナウイルスの感染拡大である。

放送現場も「三密」を避けるなど、安全第一の体制が求められることになった。刻々変わる状況に合わせた対応をすることになった現場の努力に、まず敬意を示したい。ただ、他方で、このコロナ禍による現場の作業のしわ寄せが、外部の業者や契約スタッフに向かいがちとの声も聞いた。もちろん、東海テレビの現場が事案として問題にされているわけではない。ただ、コロナ禍では、「ステイホーム」に象徴されるように、人との接触を制限することが求められている。9年前の「ぴーかんテレビ不適切テロップ」事件の時に問題にされたのは、現場のコミュニケーション力であった。人との接触を制限しつつ、コミュニケーションは大切にすることこそが、いま求められていると言える。あの事件の反省から培われてきたコミュニケーション力の真価がいま問われているのではないか。

放送倫理に関して、もう1点、触れておきたい。

この6月、日本民間放送連盟は、『放送の価値向上・未来像に関する民放連の施策 最終報告』を発表した。2018年の年初で安倍首相が「放送改革」に言及したことを受けて顕在化した「民放不要論」などを背景に、同年、民放連会長に就任した大久保好男日本テレビ社長（当時）の肝いりで進められたプロジェクトである。

この報告書のスタンスは、自らの未来は自らが描いていくということだ。本報告書の各論編の最初には、「放送倫理」について一章が設けられている。そこにも示されている通り、民主主義を標榜する日本社会において、放送倫理の担保にとって重要なのは、自主自律である。

それは、放送現場を構成する一人ひとりの自覚によって成り立つことを忘れてはならない。



音 好宏（おと よしひろ）氏
上智大学文学部新聞学科教授
北海道札幌市生まれ。1990年上智大学大学院博士後期課程満期退学。日本民間放送連盟研究所勤務後、1994年より上智大学専任講師、その後、助教授を経て、2007年より現職。専門はメディア論。2013年より上智大学メディア・ジャーナリズム研究所所長を務める。

この1年の取り組み

2019年

- 7月 放送倫理を考える月間
7月25日(木) 2019年度上期放送人研修会
「多様性と報道～LGBTを中心に～」
講師 福谷朋子弁護士
(東海テレビ放送番組審議会委員)
- 8月 2日(金) 放送倫理を考える全社集会
8月30日(金) 第24回コンプライアンス責任者会議
9月 9日(月) オンブズ東海第31回委員会
9月10日(火) 新任部長級社員コンプライアンス研修
9月11日(水) 第16回コンプライアンス委員会
9月19日(木) 2019年「日本民間放送連盟賞」
テレビCM部門
最優秀
公共キャンペーン・スポット
「見えない障害と生きる。」
優 秀
愛知県豊橋市 野菜摂取を促進
「高すぎ?低すぎ?野菜の〇〇」
鳥羽水族館 企業CM
「プロフェッショナルがいる」
- 10月 2日(水) 2019 59th ACC TOKYO CREATIVITY
AWARDS フィルム部門 A カテゴリー
ACCゴールド
公共キャンペーン・スポット
「見えない障害と生きる。」
- 10月16日(水) 愛知教育大学と連携協定締結
10月26日(土) ふるさとイッチー祭(～27日)
11月 5日(火) 個人情報保護・情報セキュリティに関する
内部監査(～11月28日)
11月29日(金) 第25回コンプライアンス責任者会議
12月 2日(月) 業務リスク調査2019(～2月28日)
12月 9日(月) オンブズ東海第32回委員会
12月14日(土) 民放4社ヘリコプター共同取材
(名古屋モデル) 初訓練

2020年

- 1月16日(木) 第58回JAA広告賞テレビ広告部門
経済産業大臣賞
「見えない障害と生きる。」
- 2月13日(木) 標的型メール訓練実施
2月27日(木) 新型コロナウイルス対策室設置
3月 2日(月) 第26回コンプライアンス責任者会議
3月 9日(月) オンブズ東海第33回委員会
3月24日(火) 第17回コンプライアンス委員会
4月 2日(木) 2020年度新入社員研修
4月10日(金) 新型コロナウイルス対策本部設置
5月29日(金) 第27回コンプライアンス責任者会議
6月 1日(月) 第57回ギャラクシー賞
入 賞
報道活動部門
「検証ふるさと納税
～手数料10%の衝撃～」
- CM部門<テレビCM>
公共キャンペーン・スポット
「見えない障害と生きる。」
鳥羽水族館 企業CM
「プロフェッショナルがいる」
- 6月 8日(月) オンブズ東海第34回委員会

おわりに

「東海テレビ この1年の取り組み2020」を最後までご覧いただき、ありがとうございました。

「びーかん問題」から9年がたちました。この間、私たちは放送倫理意識の向上を目指し様々な取り組みを進めてきました。そして、放送やイベントなどを通じて地域文化の向上、さらに、岩手県をはじめ震災被災地の復興支援に努めてまいりました。しかし、これら取り組みに終わりはありません。

過去の過ちは風化させることなく未来への教訓とし、地域の皆さまの信頼に応えられるよう、私たちは今後も活動を続けてまいります。

<制作>

東海テレビ放送コンプライアンス推進局
コンプライアンス推進部

〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号

Tel. 052-951-2511 (代表) <https://www.tokai-tv.com>

発行年月 2020年8月

※文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。

